

[基本教育科目/表現力の養成]

科目名	ナンバリング	区分(必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
基礎中国語	NLA11_006	選択必修	1	1	前期
担当教員	研究室	電子メールID	オフィスアワー		
金信敬	教員控室	sk-kin	授業終了後オンラインによる		
授業の目的・概要	初級レベルの中国語能力(聴解力、発話力、読解力、作文力など)を身に付け、簡単な日常挨拶ができるようにすることを目的とする。声調、単母音、子音、複合母音、-n/-ngを伴う母音などを覚え、基本文型・文法などを学ぶ。DVDを鑑賞しながら発音・声調などの特徴を確認し、理解を深める。同時双方向型授業を通し、教科書の学習内容の音声聞きながら確認する。練習問題は教科書あるいは送付プリントに書き込み添付ファイルで提出する。				
学習上の助言	語学分野なので、授業への積極的な参加が求められる。				
教科書	《新版》中国語10課/著:方如偉・王智新・鏡屋一/白水社(2019)				
参考書	特になし				
学生が達成すべき行動目標			関連卒業認定・学位授与方針		
①	中国の標準語(普通話)の声調、母音、子音などを覚える		HSU(1)(2)		
②	基本文型・文法を学び、日常会話ができるようにする		HSU(1)(2)		
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業方法	学習課題・学習時間(時間)		
1	中国とは?簡単な挨拶文の簡体字を学ぶ。	同時双方向型授業	講義内容を教科書で確認する。	0.5	
2	声調(四声)、単母音、子音を学ぶ。	同時双方向型授業	講義内容を教科書で確認する。	0.5	
3	複合母音、-n、-ng 伴う母音(鼻母音)を学ぶ。	同時双方向型授業	講義内容を教科書で確認する。	0.5	
4	ピンインの書き方、声調のつけ方を学ぶ。	同時双方向型授業	講義内容を教科書で確認する。	0.5	
5	第1課 本文、人称代名詞、動詞、疑問を表わす助詞を学ぶ。	同時双方向型授業	講義内容を教科書で確認する。	0.5	
6	第2課 本文、指示代名詞(1)、疑問詞を学ぶ。	同時双方向型授業	講義内容を教科書で確認する。	0.5	
7	第3課 本文、指示代名詞(2)、形容詞述語文を学ぶ。	同時双方向型授業	講義内容を教科書で確認する。	0.5	
8	第4課 本文、数詞、助詞を学ぶ。	同時双方向型授業	講義内容を教科書で確認する。	0.5	
9	第5課 本文、場所指示代名詞、形容詞述語文を学ぶ。	同時双方向型授業	講義内容を教科書で確認する。	0.5	
10	第6課 本文、所有・存在・場所・所在に関する表現を学ぶ	同時双方向型授業	講義内容を教科書で確認する。	0.5	
11	第7課 本文、反復疑問文、量詞を学ぶ。	同時双方向型授業	講義内容を教科書で確認する。	0.5	
12	第8課 本文、「可能」を表わす助動詞を学ぶ。	同時双方向型授業	講義内容を教科書で確認する。	0.5	
13	第9課 本文、「過去」「経験」を表わす助動詞を学ぶ。	同時双方向型授業	講義内容を教科書で確認する。	0.5	
14	第10課 本文、料理を注文するときの慣用語を学ぶ。	同時双方向型授業	講義内容を教科書で確認する。	0.5	
15	定期試験練習問題を配布する。DVD(世界遺産、伝統文化など)を鑑賞する。	同時双方向型授業	課題プリントで復習する。	9	
試	定期試験				

[基本教育科目/表現力の養成]

達成度評価							
総合評価割合(%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計
		70	0	0	0	30	100
総合力指標	知識・技術力	30	0	0	0	0	30
	思考・推論・創造する力	0	0	0	0	0	0
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0
	発表・表現伝達する力	20	0	0	0	0	20
	コミュニケーション力	20	0	0	0	0	20
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	30	30
		問題を発見・解決する力	0	0	0	0	0
評価のポイント							
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点				フィードバックの方法	
試験	①	✓	授業中の小テストと定期試験(筆記試験)結果を70%で評価する。				授業中の小テスト及び定期試験結果をフィードバックし、説明する。
	②	✓					
レポート	①						
	②						
成果発表	①						
	②						
ポートフォリオ	①						
	②						
その他	①	✓	同時双方向型授業における授業への取り込みや受講態度により評価する。中国語の学習は、まず授業に積極的取り組むことが大事である。間違っても、自信がなくても、口を開けて話すこと、書くことが上達の秘訣である。授業中には、できるだけ中国語を駆使して努力する姿勢を評価する。(30%)				学生の授業取り組みを評価しながら、指摘や個別の助言などを行う。
	②	✓					
備 考							
中国語基礎の授業ですので、授業に関する以外の会話は禁ずる。授業だけではなく、普段の生活の中でも中国語でのあいさつや日常会話を使うように努める。 ・Teamsを使った同時双方向型授業を行う。授業は通信容量が無制限のWifi環境を推奨する。 ・Teamsを使って同時双方向型授業を行う。課題ダウンロードや動画視聴などがあるので、通信容量制限がある場合は通信量に十分注意してください。 ・今後の新型コロナウイルス感染症の状況など社会情勢によって再度シラバスの変更があり得る。							